

ダシャーの解釈<ピリーグラハムの場合>

例えば、ピリーグラハムの土星/金星期について検討してみると、土星はラグナからみて11、12室支配で6室に在住し、月から2、3室支配で9室に在住しています。さらに太陽からみて4、5室支配で11室に在住し、MDの土星から見て6、7室支配で1室に在住しています。

金星はラグナからみて3、8室支配で8室に在住し、月からみて6、11室支配で11室に在住し、太陽からみて1、8室支配で1室に在住し、MDの土星からみて3、10室支配で3室に在住しています。

ラグナ、月、太陽、<ダシャーロード>の優先順位で確実に言えるのは、

ラグナ = 月 = ダシャーロード > 太陽

のため、今回は太陽を省略して、ラグナ、月、<ダシャーロード>のみで検討します。

土星はラグナから見ても月から見てもMDの土星から見てもトリシャダハウスを支配しており機能的凶星です。特にラグナから見ると6室のトリシャダハウスに在住しています。

金星もラグナから見ても月から見てもMDの土星からみてもトリシャダハウスを支配して機能的凶星化しており、8室や11室、3室などのドゥシュタナやトリシャダハウスに在住しています。

まず、最初に大雑把な印象として言えるのが、土星も金星も凶星化していて凶ハウスに在住する傾向があるということです。従って、ピリーグラハムは土星/金星期は少し運気が悪いということになります。

どのように悪いかと言うと、土星が在住しているのが6室ですが、金星が在住しているのが8室です。まず6室も8室も対人関係を表わすハウスです。まず対人関係における運気の悪さだと分かります。金星はラグナから8室支配で8室に在住し、月から6室支配で11室に在住しています。

8室というのは対人関係のハウスですが、自分が苦手な相手、天敵、支配者を表わします。

自分が決して勝てない相手です。また6室は自分が優位にたって支配する相手を表わします。

8室を経験する時、逃れられない不幸を味わいます。6室を経験する時、自分が支配する相手からの反発や批判、訴訟を受けてそれに耐え忍ぶこととなります。何とかやり過すことは出来るものの、これも厳しい体験となります。

この土星/金星期にピリーグラハムがどんな状態で何を体験していたかということ、先に引用した次の文章が参考になります。

(略) 7月にニューヨークでピリー・グラハムが最後の伝道集会を開きました。そこで非常に奇妙なことが起こりました。しかし、日本ではそのことは全く報道されていません。デイヴィッド・メイヤー氏のラストランペットニュースレターによれば、それは次のようなものです。

「わが国の最も特筆すべき霊的な盲目と死の実例は最近ニューヨークで開かれたビリー・グラハムのクルーセードである。およそ8万人の人々がグラハムのお話を聞くために集まった。そして彼の15分間の説教の前にグラハムはビル・クリントンとヒラリーに迎えられた。グラハムはビルとヒラリーの手を取って、ヒラリーを次のアメリカ大統領に推薦した。グラハムの正確な言葉は次のようなものである。『クリントン夫妻は素晴らしい友人であり、偉大なカップルです。ミスター・クリントンは伝道者とならなければなりません。そして彼の妻がこの国を運営することを許さなければなりません。』ニューヨーク・デイリー・ニュースはビル・クリントンがグラハムの手を取ったとき聴衆は歓声を挙げた（または叫んだ）。**なぜグラハムは浮気者のビル・クリントンがかつてその地位に着いた人々の中でも、もっとも過激なりベラリストであるという事実を無視するのだろうか。グラハムは妊娠中絶擁護団体を支持していると公言しているこの二人に対して、ヒラリーがこの国を運営することを支持し、ビルが福音を語ることを支持したのである。グラハムはこの二人が反キリストの特質の一つであるホモセクシャルとレスビアンアメリカと世界のチアリーダーであることも語らなかった。グラハムはこのことを良く知っている。しかし彼はクリントンのような政治家であり、いつも最も愛される偽り者なのである。」**（略）

<http://www.ne.jp/asahi/petros/izumi/arano/arano050926.htm> 荒野の声 No.29 より引用抜粋
文中でデヴィッド・メイヤー氏のラストランペットレターから引用したと書かれている

これはビリー・グラハムが彼の伝導集会の中でヒラリー・クリントンの応援をしたことについて批判した文章である。

ビリー・グラハムは共和党支持の伝統信奉主義キリスト教徒で右翼の保守主義者であり、その立場からすると妊娠中絶に反対で、同性愛にも反対している。そして、ビル・クリントンとヒラリーは民主党で、同性愛を容認し、妊娠中絶にも賛成である。従って、この価値観の相違からして、本来、同性愛や妊娠中絶といった価値観の問題を重視する共和党の保守主義者がビル・クリントンやヒラリーを応援することはあり得ないのである。

然し、ここで、ビリー・グラハムは、

『クリントン夫妻は素晴らしい友人であり、偉大なカップルです。ミスター・クリントンは伝道者とならなければなりません。そして彼の妻がこの国を運営することを許さなければなりません。』

と応援しているのである。

ここで考えられることはビリー・グラハムは主従関係や力関係によって、本来、応援したくない人々を応援しなければならない立場に追い込まれたということである。この8室支配で8室天秤座に在住する金星は明らかにヒラリー・クリントンを表わしていると推測されるのである。

ヒラリー・クリントンはラグナロードの水星が天秤座に在住し、天秤座に惑星集中しており、しかもこの選挙の期間はマハダシャー太陽期であったので、まさに天秤座の人であったといえることができる。

Mo		Ra	As
	Hillary Clinton 1947/10/26 20:00 Chicago, IL D/1		Ma Sa
	Ke Ju	Su Ve MeR	

Sa		Ve	MeR
	D/9		Ke
Ra Ma			Mo
As Su			Ju

次の部分を読むとその微妙な感じが伝わってくる。

『(略) わが国の最も特筆すべき霊的な盲目と死の実例は最近ニューヨークで開かれたビリー・グラハムのクルーセードである。およそ8万人の人々がグラハムのお話を聞くために集まった。そして彼の15分間の説教の前にグラハムはビル・クリントンとヒラリーに迎えられた。(中略) ニューヨーク・デイリー・ニュースはビル・クリントンがグラハムの手を取ったとき聴衆は歓声を挙げた(略)』

この上記の赤字の部分を読むと、ビルクリントンやヒラリークリントンの方が、ビリーグラハムを迎える立場で上の立場のように思えるのである。彼に応援をさせてあげる立場のようである。確かにビルクリントンはアメリカ大統領を務めたほどの人物であるから、国王とか王室に匹敵する人物である。それでその王室の二人に迎えられたビリーグラハムは国王に呼ばれた使いの者のように、クリントンやヒラリーを持ち上げるしかないのである。

つまり、強かに8室の象意を表わしている金星は力関係が上の相手から頼みごとをされ、断れない立場に追い込まれたものと思われる。その見返りとして彼は確かに荣誉な立場とかお金さえも受け取ったかもしれないが、彼を慕う一般信徒の中にはこの応援を疑問に思った人々もいたと思われる。現にこの文章がそれを物語っている。

そして、この批判者はビルダーバーグ会議や外交問題評議会(CFR)などの世界のエスタブリッシュメントが参加する重要会議に出席するビルクリントンや、ヒラリー・(ロッドム)・クリントンとして、オランダのユダヤ系につながる彼らをイルミナティのメンバーとして批判的に捉えている。アメリカの4000万人いるといわれるキリスト教原理主義の人々をアメリカの支配層であるユダヤ系のエスタブリッシュメントが完全に抑えていることを象徴する出来事である。

このように土星/金星期のビリーグラハムは自分が逆らえない長いもの(支配者たち)によって巻かれて自分のポリシーにあわない応援をさせられ、それによって苦悩した時期であると言える。